

## 平成 26 年度事業報告書 附属明細書

附属明細書 1 協力会員校等

附属明細書 2 主催セミナーに関する事項

附属明細書 3 留学生会館入居状況

附属明細書 4 留学生論文の表彰に関する事項

## 協力会員校等一覧

平成 27 年 3 月 31 日現在

No.	協力会員校等名称	No.	協力会員校等名称
1	埼玉大学	25	帝京大学
2	千葉大学	26	東京経済大学
3	東京工業大学	27	東京工科大学
4	東京外国語大学	28	東京都市大学
5	東京学芸大学	29	東京理科大学
6	東京農工大学	30	東洋大学
7	お茶の水女子大学	31	日本女子大学
8	電気通信大学	32	法政大学
9	一橋大学	33	明治大学
10	国際教養大学	34	明星大学
11	首都大学東京	35	ヤマザキ学園大学
12	青山学院大学	36	立教大学
13	桜美林大学	37	立正大学
14	大妻女子大学	38	早稲田大学
15	慶応義塾大学	39	東洋英和女学院大学
16	恵泉女学園大学	40	防衛大学校
17	工学院大学	41	東京工業高等専門学校
18	国際基督教大学	42	白梅学園短期大学
19	駒澤大学	43	日米会話学園 (財)国際教育振興会
20	芝浦工業大学	44	(株)ホームスクール 横浜ゼミナール
21	順天堂大学	45	(株)スリーボンド
22	上智大学	46	(財)日中技能者交流センター
23	創価大学	47	幼体連スポーツクラブ
24	中央大学		

平成 26 年度事業報告 主催セミナー事業 附

事業名	第 3 回 E U セミナー												
期日	9 月 19 日～21 日（金～日）												
主題	新段階を迎える E U——銀行同盟、欧州デモクラシー、安全保障——												
対象	大学生、社会人												
趣旨	ユーロ危機を乗り越えた E U は新たな段階に向かっている。ユーロ圏の財政危機の経験は E U の深化を一層進めることになった。銀行同盟はその一つの端緒であるが、実際にはその先行きは容易ではない。同時に、本年 5 月の欧州議会選挙にみる極右ポピュリズムの勢力拡大はデモクラシーの実験としての欧州統合や E U ガバナンスにとって大きな試練となる可能性もある。リビア・マリへの欧州諸国の介入は、近隣政策とその具体的なひとつの表現としての共通防衛政策の難しさを露呈させた。そして E U への加盟プロセスを発端とするウクライナ問題は、E U の近隣政策ばかりか、米欧関係・エネルギー・地政学的な大国間関係の課題を内包する。ウクライナ問題は安全保障面でのグローバルイシューとして世界のコミットすべきテーマである。新しいテーマに直面しつつ、次のステージを模索する E U の今日について考える。												
講師・企画委員	アレクサンダー・マクラコラン(駐日欧州連合代表部政治経済部公使参事官) 渡邊啓貴（東京外国語大学大学院教授）** 小久保康之（東洋英和女学院大学教授）** 田中素香（中央大学教授・日本 E U 学会理事）** 蓮見雄（立正大学教授）** 押村高（青山学院大学教授）** 中西優美子（一橋大学大学院教授）** 福田耕治（早稲田大学政治経済学術院教授）**												
定員	70 名												
参加者	71 名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <table border="1"> <caption>アンケート結果のデータ</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足している</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>どちらかと言うと、満足している</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>どちらかと言うと、不満である</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>不満である</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足している	45%	どちらかと言うと、満足している	45%	どちらかと言うと、不満である	8%	わからない	2%	不満である	0%
満足度	割合												
満足している	45%												
どちらかと言うと、満足している	45%												
どちらかと言うと、不満である	8%												
わからない	2%												
不満である	0%												

(注) \*\*印は企画委員を兼ねた講師

事業名	第3回デジタルアートセミナー												
期日	10月11日～12日（土～日）												
主題	openFrameworks で学ぶクリエイティブ・コーディング												
対象	大学生、社会人												
	<p>本セミナーは、実践的なクリエイティブ・コーディング環境として、デジタルアートを学ぶ美術大学の学生から、プロのアーティストやクリエイターまで、数多くの作品制作に使われる openFrameworks を学びたい初心者向けのワークショップから、すでに本格的な作品制作に利用しているプロのアーティスト・クリエイターにも役立つ実践的な内容までを学ぶものとして開講された。</p>												
講師・企画委員	藤本直明（東京工芸大学非常勤講師）** 田所 淳（千葉商科大学非常勤講師） 神田 竜（サウンドアーティスト／プログラマー） 赤川智洋（アーティスト）												
定員	50名												
参加者	92名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナー満足度</p> <table border="1"> <caption>セミナー満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	76%	やや満足	18%	どちらともいえない	4%	やや不満	2%	不満	0%
満足度	割合												
満足	76%												
やや満足	18%												
どちらともいえない	4%												
やや不満	2%												
不満	0%												

（注）\*\*印は企画委員を兼ねた講師

事業名	第 41 回国際学生セミナー												
期日	11 月 22 日～23 日（土～日）												
主題	アジア・太平洋の歴史と未来——国際関係論と地域研究の視点から——												
対象	大学生、留学生、社会人（八王子学園都市センター「いちょう塾」提供講座）												
趣旨	2000 年～2006 年にかけて大学セミナーハウス理事長を勤められ、昨年ご逝去された中嶋嶺雄先生（東京外国語大学元学長・国際教養大学前理事長）の追悼セミナー。中嶋先生は中国の内外政の研究をはじめとして、アジア・太平洋地域の国際関係研究の発展に大きな貢献をなされたわが国を代表する研究者であり、教育者だった。本年の国際学生セミナーは、故中嶋先生を偲び、先生が輩出された門下生を中心に企画した。表題は中嶋先生が主催されたゼミ誌『歴史と未来』から来ている。アジア・太平洋地域を広範にカバーした議論が期待される。												
講師・企画委員	<p>企画委員長 渡邊 啓貴（東京外国語大学大学院教授）* （講師） 渡辺利夫（拓殖大学総長）</p> <p>濱本良一（国際教養大学教授） 大崎雄二（法政大学教授） 松田康博（東京大学大教授） 山崎直也（国際教養大学准教授） 澤田ゆかり（東京外国語大学教授） 曾根康雄（日本大学教授） 伊豆見元（静岡県立大学教授） 小針進（静岡県立大学教授）</p> <p>五島文雄（静岡県立大学教授） 諏訪一幸（静岡県立大学教授） 名越健郎（拓殖大学教授） 河原地英武（京都産業大学教授） 井尻秀憲（東京外国語大学教授） 勝又美智雄（国際教養大学教授） 中嶋聖雄（早稲田大学准教授） 中本義彦（静岡大学教授）</p>												
定員	40 名												
参加者	87 名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナー満足度</p> <table border="1"> <caption>セミナー満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足している</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>どちらかと言うと、満足している</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>どちらかと言うと、不満である</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>不満である</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足している	75%	どちらかと言うと、満足している	20%	どちらかと言うと、不満である	2%	不満である	1%	わからない	2%
満足度	割合												
満足している	75%												
どちらかと言うと、満足している	20%												
どちらかと言うと、不満である	2%												
不満である	1%												
わからない	2%												

(注) \*印は企画委員

事業名	第 30 回大学職員セミナー														
期日	7 月 11 日～12 日（土～日）														
主題	大学職員の可能性——大学改革を牽引する職員を目指して I——														
趣旨	<p>現代の大学で働く大学職員は受け身の姿勢でなく、自らアクティブに考え、動かないといけない状況になっていると言える。</p> <p>こうした現状を踏まえ、本セミナーでは大学職員による大学改革の可能性について考えていきたい。具体的には学生支援、教学改革、入試改革などで大学をリードしてきた担当職員に先進的な取り組み例を報告してもらいながらグループディスカッションを行い、具体的な改革提案を立案するという、バーチャル大学改革を体験してみたい。</p>														
講師・企画委員	<p>加藤建二（東洋大学入試部長）</p> <p>松本美奈（読売新聞東京本社）</p> <p>近藤清之（法政大学学務部長・入学センター長）**</p> <p>山本眞一（桜美林大学大学院教授）**</p> <p>青木加奈子（高崎経済大学教育教育グループ職員）**</p> <p>中山眞一（明治大学経営企画部広報課長）**</p>														
定員	40 名														
参加者	40 名														
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナー満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>47%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>48%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	47%	やや満足	48%	無回答	5%	やや不満	0%	不満	0%	わからない	0%
満足度	割合														
満足	47%														
やや満足	48%														
無回答	5%														
やや不満	0%														
不満	0%														
わからない	0%														

(注) \*\*印は企画委員を兼ねた講師

事業名	第4回新任教員研修セミナー														
期日	9月1日～3日（月～水）														
対象	国・公・私立大学等で授業を担当する新任教員														
趣旨	多様な学生が大学教育を受ける機会が飛躍的に拡大した今日、学生の意欲を高め、能動的な学びを通して自ら課題を発見して解決する力を培うことは、大学教員に課せられた最も重要なテーマである。新任教員研修セミナーでは、国公立大学の枠を越えた合宿形式の相互研修により、新たな時代にふさわしい大学教育のあり方を探る。本セミナーでは（1）他大学・他分野の教員との交流を通して、ユニバーサル・アクセス時代の大学教員にふさわしい教育方法を構築するためのヒントを得ること（2）前期（春学期）に実施した授業に対する学生による授業評価アンケートの結果を、後期（秋学期）における授業改善に活かす方策を見出すこと（3）シラバスの活用方法についてのヒントを得ることを到達目標とする。														
講師・企画委員	中村 淳（電気通信大学教授） 村山光子(明星大学学生サポートセンター長) 江夏 由樹（一橋大学名誉教授）** 菊地 滋夫（明星大学教授）** 荒木晶子（桜美林大学教授）** 北原 和夫（東京理科大学教授）** 史 傑（電気通信大学教授）**														
定員	40名														
参加者	34名														
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナー満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>66%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>34%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	66%	やや満足	34%	やや不満	0%	不満	0%	わからない	0%	無回答	0%
満足度	割合														
満足	66%														
やや満足	34%														
やや不満	0%														
不満	0%														
わからない	0%														
無回答	0%														

(注) \*\*印は企画委員を兼ねた講師

事業名	第31回大学職員セミナー														
期日	11月28日～29日（金～土）														
主題	大学職員の可能性——大学改革を牽引する職員を目指してⅡ——														
趣旨	<p>現代の大学で働く大学職員は受け身の姿勢でなく、自らアクティブに考え、動かないといけない状況になっていると言える。</p> <p>こうした現状を踏まえ、本セミナーでは大学職員による大学改革の可能性について考えていきたい。具体的には学生支援、教学改革、入試改革などで大学をリードしてきた担当職員に先進的な取り組み例を報告してもらいながらグループディスカッションを行い、具体的な改革提案を立案するという、バーチャル大学改革を体験してみたい。</p>														
講師・企画委員	<p>野見山 智道（明治大学経営企画部広報課副参事）</p> <p>松坂 浩史（文部科学省大臣官房文部科学広報官）</p> <p>近藤清之（法政大学学務部長・入学センター長）**</p> <p>山本眞一（桜美林大学大学院教授）**</p> <p>青木加奈子（高崎経済大学教育教育グループ職員）**</p> <p>中山眞一（明治大学経営企画部広報課長）**</p>														
定員	40名														
参加者	32名														
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度</b></p> <table border="1"> <caption>セミナー満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>69%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>28%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	69%	やや満足	28%	不満	3%	やや不満	0%	わからない	0%	無回答	0%
満足度	割合														
満足	69%														
やや満足	28%														
不満	3%														
やや不満	0%														
わからない	0%														
無回答	0%														

（注）\*\*印は企画委員を兼ねた講師



事業名	第9回教員免許状更新講習																				
期日	8月2日～5日（土～火）																				
主題																					
趣旨	本セミナーは、4日間の短期集中講習により、免許状更新に必要な必修12時間・選択18時間の講習修了を可能とし、大学の現役／元教員による教育問題への真摯な講座提供と、受講する教員どうしの交流、ネットワークづくりをねらいとして開講される。																				
講師・企画委員	安田忠郎（教員免許更新センター長）** 高垣マユミ（実践女子大学教授） 蔦澤元晴（早稲田大学大学院客員教授） 小川彩子（元米国州立シンシナティ大学 UCBA 準教授） 山内芳文（筑波大学名誉教授） 吉田真史（東京都市大学教授） 山脇由貴子（東京都児童相談センター児童心理司）ーゲストスピーカーー																				
定員	70名																				
参加者	70名																				
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度（必修科目）</b></p> <table border="1"> <caption>必修科目満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>だいたいよい</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>よい</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>あまり十分でない</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>不十分</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度（選択科目）</b></p> <table border="1"> <caption>選択科目満足度</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>だいたいよい</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>よい</td> <td>44%</td> </tr> <tr> <td>あまり十分でない</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>不十分</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	だいたいよい	52%	よい	44%	あまり十分でない	3%	不十分	1%	満足度	割合	だいたいよい	52%	よい	44%	あまり十分でない	3%	不十分	1%
満足度	割合																				
だいたいよい	52%																				
よい	44%																				
あまり十分でない	3%																				
不十分	1%																				
満足度	割合																				
だいたいよい	52%																				
よい	44%																				
あまり十分でない	3%																				
不十分	1%																				

(注) \*\*印は企画委員を兼ねた講師

事業名	第 11 回古代史セミナー												
期日	11 月 8 日～9 日（土～日）												
主題	日本古代史・新考―由自在（その 7）―												
対象	一般 社会人 八王子学園都市センター「いちよう塾」提供講座												
趣旨	本セミナーは今回で 11 回を迎えた。講師の古田武彦氏の研究対象は日本古代史にとどまらない。近現代史や思想史、宗教論、そして国家論など多岐にわたる。幅広い専門をお持ちの古田氏にご自身の最新の研究成果を思う存分、自由自在に語っていただく。												
講師・企画委員	古田武彦（歴史学者）** 荻上紘一（大妻女子大学学長）*												
定員	60 名												
参加者	108 名												
アンケート結果	<p style="text-align: center;">セミナー満足度</p> <table border="1"> <caption>アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>36%</td> </tr> <tr> <td>やや満足</td> <td>54%</td> </tr> <tr> <td>やや不満</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	満足	36%	やや満足	54%	やや不満	10%	不満	0%	わからない	0%
満足度	割合												
満足	36%												
やや満足	54%												
やや不満	10%												
不満	0%												
わからない	0%												

(注) \*印は企画委員、 \*\*印は企画委員を兼ねた講師

事業名	第10回教員免許状更新講習																				
期日	12月24日～12月27日（水～土）																				
主題																					
趣旨	本セミナーは、4日間の短期集中講習により、免許状更新に必要な必修12時間・選択18時間の講習修了を可能とし、大学の現役／元教員による教育問題への真摯な講座提供と、受講する教員どうしの交流、ネットワークづくりをねらいとして開講される。																				
講師・企画委員	安田忠郎（教員免許更新センター長）** 高垣マユミ（実践女子大学教授） 蔦澤元晴（早稲田大学大学院客員教授） 小川彩子（元米国州立シンシナティ大学 UCBA 準教授） 山内芳文（筑波大学名誉教授） 吉田真史（東京都市大学教授） 山脇由貴子（東京都児童相談センター児童心理司）ーゲストスピーカーー																				
定員	70名																				
参加者	90名																				
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度（必修科目）</b></p> <table border="1"> <caption>セミナー満足度（必修科目）</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よい</td> <td>41%</td> </tr> <tr> <td>だいたいよい</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>あまり十分でない</td> <td>6%</td> </tr> <tr> <td>不十分</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度（選択科目）</b></p> <table border="1"> <caption>セミナー満足度（選択科目）</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よい</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>だいたいよい</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>あまり十分でない</td> <td>5%</td> </tr> <tr> <td>不十分</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	よい	41%	だいたいよい	51%	あまり十分でない	6%	不十分	2%	満足度	割合	よい	52%	だいたいよい	42%	あまり十分でない	5%	不十分	1%
満足度	割合																				
よい	41%																				
だいたいよい	51%																				
あまり十分でない	6%																				
不十分	2%																				
満足度	割合																				
よい	52%																				
だいたいよい	42%																				
あまり十分でない	5%																				
不十分	1%																				

(注) \*\*印は企画委員を兼ねた講師

事業名	第 11 回教員免許状更新講習																				
期日	1 月 21 日～24 日（水～土）																				
主題																					
趣旨	本セミナーは、4 日間の短期集中講習により、免許状更新に必要な必修 12 時間・選択 18 時間の講習修了を可能とし、大学の現役／元教員による教育問題への真摯な講座提供と、受講する教員どうしの交流、ネットワークづくりをねらいとして開講された。																				
講師・企画委員	安田忠郎（教員免許更新センター長）** 高垣マユミ（津田塾大学教授） 蔦澤元晴（早稲田大学大学院客員教授） 小川彩子（元米国州立シンシナティ大学 UCBA 準教授） 山内芳文（筑波大学名誉教授） 吉田真史（東京都市大学教授） 山脇由貴子（東京都児童相談センター児童心理司）ーゲストスピーカーー																				
定員	70 名																				
参加者	81 名																				
アンケート結果	<p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度（必修）</b></p> <table border="1"> <caption>セミナー満足度（必修）</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よい</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>だいたいよい</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>あまり十分でない</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>不十分</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;"><b>セミナー満足度（選択科目）</b></p> <table border="1"> <caption>セミナー満足度（選択科目）</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>よい</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>だいたいよい</td> <td>51%</td> </tr> <tr> <td>あまり十分でない</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>不十分</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	満足度	割合	よい	31%	だいたいよい	52%	あまり十分でない	17%	不十分	0%	満足度	割合	よい	42%	だいたいよい	51%	あまり十分でない	7%	不十分	0%
満足度	割合																				
よい	31%																				
だいたいよい	52%																				
あまり十分でない	17%																				
不十分	0%																				
満足度	割合																				
よい	42%																				
だいたいよい	51%																				
あまり十分でない	7%																				
不十分	0%																				

(注) \*\*印は企画委員を兼ねた講師

平成 26 年度事業報告 附属明細書 3 留学生会館入居状況

1. 平成 27 年 3 月現在入居状況

学校名	所属			計	性別	
	大学院生 (研究生を含む)	学部生	客員研究員		男	女
首都大学東京	6			6	1	5
東京工科大学		3		3	3	
中央大学	2	1	1	4	2	2
帝京大学		1		1	1	
電気通信大学	1			1	1	
明治大学		1		1		1
明星大学		4		4		4
多摩美術大学		1		1	1	
十文字女学園大学		1		1		1
合計	9	12	1	22	9	13

2. 国別留学生数

国名	計	大学院生	学部生	客員研究員
イタリア	1	1		
韓国	1		1	
カンボジア	2	1	1	
中国	13	4	9	
中国台湾	3	1	1	1
ベトナム	1		1	
ロシア	1	1		
合計	22	8	13	1

平成 26 年度事業報告 附属明細書 4 留学生論文の表彰に関する事項

留学生の日本語による論文作成能力を向上させる機会を提供するとともに、日本留学の成果を発信し、国際相互理解及び国際交流を促進することを目的に平成 21 年度から実施している。今年度は全国の大学から 38 の応募作品が寄せられ、下記のとおり 6 作品が入賞した。

1. 応募作品数：38 作品
2. 応募者内訳
  - (1) 大学数：30 大学
  - (2) 国籍：7 ヶ国 1 地域
3. 入賞作品一覧

賞別	氏名	大学名	国籍	論題
金	権 和榮	群馬県立女子大学	韓国	文化遺産の破壊と略奪に対しての人類の課題
銀	李 根雨	東京大学	韓国	マーケット・インフォメーション・システムが小作農の利益に及ぼす効果分析——情報の非対称性を解消するための取組——
銀	朴 穂玟	麗澤大学	韓国	グローバル企業と知的財産権に関わった地球的問題
銅	張 明坤	千葉商科大学大学院	中国	中国における静脈経済の概観——廃棄物の 3R イニシアティブ
銅	孫 迎依	東京外国語大学	中国	方言は消滅してしまうか
銅	朴 志修	早稲田大学	韓国	高齢者孤立の予防・解決のために地球レベルで出来ること